

実践副作用学特論

責任者・コーディネーター	臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学講座、衛生化学講座、細胞病態生物学講座、生体防御学講座、薬物代謝動態学講座、神経科学講座、薬剤治療学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬剤師には医薬品使用における有効性と安全性を確保することが求められている。臨床で遭遇する副作用は治療用量域で発生する有害で意図しない反応で、症状は全身に及び、悪心からアナフィラキシーショックなど生命の危機に結びつくようなものまで多様である。副作用の多くは、用量関連性のものと非用量関連性のものに分けられ、用量関連性の副作用は予測可能であるが非用量関連性の副作用は予測が困難でありかつ比較的まれである。実践副作用学特論では、医薬品の使用により発生する実際の副作用疾患を学習することにより、副作用の早期発見及び早期対応を可能とし、重篤化を予防し医薬品使用の安全性向上に資することを目的とする。

・一般目標（GIO）

医薬品の使用による重篤な副作用を回避するために、代表的な重篤副作用疾患の早期発見（初期症状）と早期対応のポイント、原因となる医薬品、副作用の概要（症状、検査所見）、対処方法、典型的症例等について学ぶ。

・到達目標（SBO）

1. 重篤副作用疾患別マニュアルを説明できる。
2. 副作用モニタリングと育薬について概説できる。
3. 消化器及び肝臓における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。
4. 皮膚、過敏症及び癌における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。
5. 精神及び神経・筋骨格系における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。
6. 腎臓及び泌尿器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。
7. 血液における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。
8. 呼吸器及び心臓・循環器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。
9. 代謝・内分泌、骨及び卵巣における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。
10. 口腔及び感覚器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。

・講義日程

(矢) 東 201 2-A 講義室、東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/25	金	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	重篤副作用疾患別マニュアルと副作用モニタリング、口腔及び感覚器における代表的な重篤副作用疾患

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/2	金	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	医薬品の投与に起因する、すなわち薬剤性の肝・消化管障害について学ぶ。薬剤性肝障害、薬剤性の下痢、薬剤性の急性膵炎、麻痺性イレウス、消化性潰瘍、偽膜性大腸炎の原因医薬品と症状、対応法について学ぶ。
5/16	金	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	腎・泌尿器系に現れる代表的な副作用として急性腎不全、出血性膀胱炎、尿閉・排尿困難について学ぶ。
5/23	金	1	神経科学講座	駒野 宏人 教授	精神、神経・筋骨格系の医薬品のもたらす代表的な副作用として、アカシジア、セロトニン症候群、悪性症候群、横紋筋融解症、薬剤性パーキンソンズムをとりあげ、その原因となる医薬品とその症状、対応法について学ぶ。
5/30	金	1	細胞病態生物学講座	北川 隆之 教授	がん、過敏症、皮膚疾患の化学療法と副作用についてグループ学習を交えて学習する。
6/13	金	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	医薬品の副作用として発症する、主要な血液疾患（血球と凝固の異常に関する疾患）のうち、再生不良性貧血、無顆粒球症、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、出血傾向をとりあげ、その原因となる医薬品とその症状、対応法について学ぶ。
6/20	金	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	呼吸器及び心臓・循環器における代表的な重篤副作用疾患
6/27	金	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	代謝・内分泌及び骨、卵巣における代表的な重篤副作用疾患

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	重篤副作用疾患別対応マニュアル	厚生労働省	医薬品医療機器総合機構 ホームページよりPDFで ダウンロード可	
参	病気がみえる vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所編集	メディックメディア (定価 3,800 円)	2011
参	薬剤師のための医薬品副作用入門	増原 慶壮、大澤 友二	じほう (定価 5,200 円)	2011

・成績評価方法

講義の出席状況、定期試験、小テスト、レポート等から総合的に評価する。

・予習復習のポイント

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題をまとめること。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-W9JWECDS）	1	スライド投影のため